

「セカンド・チャンス」は リバイバルの鍵？

学院講義



真理のみことば伝道協会主事

ウィリアム・ウッド師

数年前から、日本のキリスト教会の中で、「セカンド・チャンス」と呼ばれる教理に関して、激しい議論が繰り返されています。

人が生きている間にキリストを信じなくても、ハデスで悔い改めの機会が与えられるとする教えですが、その支持者たちは、「セカンド・チャンスは日本にリバイバルをもたらす」と強く主張しています。「福音を聞かずに亡くなった先祖はどうなるのか」という、しばしば伝道の妨げとなる問題に対して簡単に説明することができるからです。確かに、一般の人々が抱く疑問に答えることも必要ですが、もっと大事なことは、聖書の真理を正しく伝えることです。聖書に基づいていない教えを説いても、それによってリバイバルなどがもたらされるはずはありません。

「セカンド・チャンス」の聖書的根拠として挙げられる聖句の一つは、第一ペテロ3章19節です。

「その霊において、キリストは捕われの霊たちのところに行ってみことばを宣べられたのです。」
1ペテロ3：19

「セカンド・チャンス」の教理によると、イエス・キリストは死なれた後、ハデスに下って、ノアの時代の人々に福音を語られ、その結果、多数の人々が救われたということですが、この個所を注意深く見ていくと、幾つかの疑問が出て来ます。まず、「捕われの霊たち」が果たして、人間を指しているのか、ということです。ギリシア語の「プニューマ」は、人間の霊に対しても、また御使いに対しても用いられますが、一つのグループとして、「霊」とか、「霊たち」、あるいは「霊ども」という表現は通常、悪霊を指しています（マタイ8・16、マルコ3・11、1テモテ4・1）。この「捕われの霊たち」が悪霊を指しているということは、2ペテロ2章4-5節を見ても、明らかです。

「神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄（ギリシア語：「タルタルス」）に引き渡し、さばきの時まで暗闇の穴の中に閉じ込められてしまわれました。また、昔の世界を赦さず、義を宣べ伝えたノアたち八人の者を保護し、不敬虔な世界に洪水を起こされました。2ペテロ2：4-5」
ここで分かるように、暗闇の穴の中に閉じ込められ

た御使いたちは、ノアの時代に神に逆らった「捕われの霊たち」なのです。「タルタルス」は、新約聖書のここにしか出てこない言葉ですが、ギリシア神話では、ハデスよりも下にある所と考えられていました。第一ペテロ3章19節には、「ハデス」という言葉はありません。「捕われの霊たちのところ」と書かれています。ですから、セカンド・チャンス説の積義上の最初の問題は、無理矢理に、これを「ハデス」と読ませていることです。

次の疑問点は、「捕われの霊たち」に、本当に福音が伝えられたか、です。「みことばを宣べられた」とあるだけです。これはギリシア語の「ケリリュソー」が使われており、単に「告知らせる」という意味です。ちなみに、「喜びのおとずれを伝える」という場合は、「ユー・アングリゾー」が用いられます。キリストは捕われの霊たちにみことばを宣べられました。それが仮に「十字架による贖いが成し遂げられた」というメッセージだとしましょう。そこで、不可解な点は、地上の誰もこの良きおとずれをまだ聞かないうちに、どうしてノアのメッセージを拒んだ人々にその特権が与えられるのか、ということです。また、キリストによって福音が語られていたとするなら、どうしてその結果、何が起こったかということが記されていないのでしょうか。つまり、福音が語られていたのなら、救いのみわざがなされたはずですが、しかし、救われる魂が起されたとは、どこにも書かれていないのです。では、キリストはタルタルスにいる捕われの霊

たちに一体、どんなメッセージを送られたのでしょうか。勿論、断定はできませんが、彼らに対する勝利宣言だったと考えることが最も自然ではないでしょうか。

「イエス・キリストはその十字架の死によって、サタンとその諸々の悪霊どもに完全に打ち勝ってくださった。そのことは、タルタルスにいる霊たちにも宣言されて、動かぬ事実として認められた。」
ペテロが言わんとしていたのは、このことではないでしょうか。実際に、このメッセージこそ、迫害によって苦しめられているクリスチャンたちの慰めになるメッセージなのです。

ここで、もう一度、セカンド・チャンスを支持する人々の主張をまとめてみましょう。「捕われの霊たち」とは、ノアの時代に神に逆らった人間のことで、「捕われの霊たちのところ」とは、ハデスのこと。「みことばを宣べられた」とは、福音を伝えたということで、それによって多くの人々が救われた。これは、乱暴極まりない釈義だと言わざるを得ません。真のリバイバルは、真理の御霊によってもたらされます。そして、真理の御霊が働いてくださるのは、真理のみことばが忠実に語られる時です。

更に、「セカンド・チャンス」について知りたい方は、11月18日にCFNJ聖書学院で行なわれた講義DVD～3枚組、2,400円（送料別）又はウッド師の著書『セカンド・チャンスは本当にあるのか』をご参照ください。

予告 第13回 2009 Youth For the Nations in CFNJ



●とき / 2009年

5月29日～31日

●メッセンジャー /

西村希望 (のぞみ) 師

●場所 / CFNJ聖書学院

YFNホームページ
<http://www.yfnjapan.com/>

●西村希望師のプロフィール
1971年生まれ。1998年インマヌエル聖宣神学院卒業。みどり野教会コース・バスター。教会は25年前にマタイ9：35-38『収穫は多いが働き手が少ない』のみことばを受け、お友達から育て、主の働き人として送り出す教会になるというビジョンをもって開拓が始められた。これまでに8名の伝道師が与えられ、現在12名の若者達が献身し、訓練を受けている。彼らに続くように次世代の子たちも同じ心が与えられ、教会の働きに仕え、大きな原動力となっている。8年前から、念願であったチャーチスクールも始め、さらに働き人育成のための働きが展開されつつある。コースの働きのメインは毎週日曜日に持っているコースワークショップで、60名ほどのコースが集まり、彼らのコースにあった表現の仕方でも主を賛美し礼拝している。このコースが主によっていかされ、キリストの弟子となることを祈り、努力している。